

ごあいさつ

一般財団法人全日本ろうあ連盟
理事長 石野富志三郎

初夏の日差しも眩しい今日、ここ信州・長野県において、全国から2,700名余りの参加者を迎え、第62回全国ろうあ者大会を開催する喜びを、ここに集う皆さんと分かち合いたいと思います。

昨年11月に連盟は東京・秋葉原において「情報アクセシビリティ・フォーラム」を開催しました。このフォーラムの開催には2つの大きな目的があります。

1つは日本にはまだなじみの薄い「アクセシビリティ」の概念を伝えることであり、もう1つは「今まさに変わりつつある情報アクセシビリティ」の最新情報を多くの人々と共有することで、聴覚障害者がこれまで抱えてきた「情報・コミュニケーションに関するバリア」の解消と「情報・コミュニケーション法」（仮称）の法制化といった社会がこれから進むべき道筋を示すことです。

現在の日本では障害は医学的な基準で判断されています。しかしながら、日本が批准した「障害者権利条約」や昨年6月に成立した「障害者差別解消法」では、これまでの医学的な判断ではなく、「実際の生活において感じる障害による不自由さ」に判断基準を置くことが明文化されています。これは私たちの取り組みの成果であり、大きな前進です。

また、私たちの何よりの宝である「手話」についての条例が、鳥取県をはじめ、北海道石狩市、北海道新得町、三重県松阪市で成立していますが、聴覚障害当事者が参画し検討を行ってきています。今や障害当事者が社会施策に参加し、作り上げるということは当たり前となってきています。「手話言語法（仮称）」の法制化という流れを絶やすことなく進めるためにも、私たちは常に声を上げていかなければなりません。

「障害者を社会から阻む壁は、障害者にあるのではなく社会にあり、その社会の障壁をなくすことが必要だ」ということを示し、障害の有無にかかわらず誰もが情報のアクセスに困らない社会を我々の運動の力で実現しましょう。

最後になりますが、本大会開催にご努力いただきました実行委員会の皆さま、公私ともお忙しいところをご臨席くださいました長野県および長野市をはじめご来賓の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

そして、本大会のテーマ「さわやかな信州で 夢を語ろう 未来につなげよう」が示す通り、私たちの望む「あるべき姿」の社会を思い描き、その夢を現実し、未来につなげる取り組みを続けていくことを改めて誓って、私の開会の挨拶とさせていただきます。